

# 「犬の毛で汚れる」バス運転手 盲導犬連れの女性に発言（岡山市）

2010年7月2日

岡山市内の路線バスの運転手が、盲導犬を連れた視覚障害者の女性に対し、犬連れでの乗車をいやがるような発言を繰り返した疑いがあることが1日、わかった。女性からの相談を受けた関西盲導犬協会（京都府亀岡市）がバス会社に改善を申し入れ、その後はなくなったという。

同協会によると、視覚障害者は岡山市在住の40代で、4年前から盲導犬を連れて生活。今年2月、通勤で乗ったバスの運転手が「犬の毛で汚れるから掃除が大変」と話すのを車内で聞いた。それ以前にも同様の発言を耳にしたため、同協会に相談。協会の要請を受けた岡山県バス協会が同月、加盟会社に適切な対応を求めた。

ところが5月、女性が同じ運転手のバスに乗り合わせた際、「乗せるのは嫌だ」という趣旨の発言が聞こえた、という。女性は降車時、運転手に名前を聞いたが、教えてもらえなかった。再度の相談を受けた協会から改善を求められたバス会社は、女性に「不快な思いをさせ、申し訳ない」と謝罪した。

ただバス会社によると、指摘を受けた50代の運転手は発言を否定。運転手の頭上に設置された車内を録画するビデオにも、舌打ちのような音はあるが、発言は記録されていなかった。同社は「日頃からの社内の指導をより徹底したい」としている。

身体障害者補助犬法で、公共交通事業者は盲導犬の同伴を拒んではならない。盲導犬協会は「最近では理解が深まり、乗車拒否や今回のような対応はほとんど聞かない。他の通勤客と同じように、気持ちよく乗車できるよう対応してほしい」と話している。